

津山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 文部科学省検定教科書 Revised Vision Quest English Expression 1Standard 参考書等: Vision Quest 総合英語Ultimate, Revised Vision Quest Standard ワークブック, Revised Vision Quest Standard生徒用音声CD, Revised Vision Quest Standard高校英語入門New Edition, Sonic Reading Stage①				
担当教員	高橋 雅幸				
到達目標					
<p>1. 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。</p> <p>2. 高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。</p> <p>3. 英文を正しく音読することができる。</p> <p>4. 学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。</p> <p>5. 上記に資するように、精読、速読、多読等のスキルを高める。</p>					
ルーブリック					
	優	良	可	不可	
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることがよくできる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることがおおむねできる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができない。	
評価項目2	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することがよくできる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することがおおむねできる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得し英語表現に利用することができない。	
評価項目3	英文を正しく音読することがよくできる。	英文を正しく音読することができる。	英文を正しく音読することがおおむねできる。	英文を正しく音読することができない。	
評価項目4	学習内容をふまえて英語で自己表現がよくできる。	学習内容をふまえて英語で自己表現ができる。	学習内容をふまえて英語で自己表現がおおむねできる。	学習内容をふまえて英語で自己表現ができない。	
評価項目5	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることにたいへん成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることに成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることにわりと成功した。	英語運用能力向上のために、精読、速読、多読等のスキルを高めることができなかった。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>一般・専門の別: 一般 必修・必履修・履修選択・選択の別: 必履修 学習の分野: 英語</p> <p>基礎となる学問分野: 英語・英米文学/言語学・音声学</p> <p>学習教育目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間の育成」、「⑤グローバルな視点と社会性の養成」、「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。</p> <p>技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成」であるが、付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。</p> <p>授業の概要: 教科書の内容・文法の順に学習し、スピーキング、ライティングの表現活動を行う。またそのためのスキルを磨く。</p>				
授業の進め方・方法	<p>授業の方法: 授業では音読活動や表現活動など様々な活動をペアやグループなど様々な形態で行うことが中心で、積極的な参加が望まれる。また多読等も取り組む。</p> <p>成績評価方法: 4回の定期試験の結果を同等に評価する(50%)。「平素の演習・小テスト・音読テストなどのパフォーマンス評価・授業への積極的参加(課題提出を含む)・多読・長期休暇課題等」(50%)との総合計により評価する。最終成績に関しては、4回の評定の平均を9割に換算して、GTECライティングパートの結果を10%加算する。再試は原則として行わない。</p>				
注意点	<p>履修上の注意: 課程修了のため履修が必須である。</p> <p>履修のアドバイス: 予習、復習の内容を明確にするので指示に従いきっちり取り組むこと。</p> <p>基礎科目: 中学までの英語授業 英語 I (1年)</p> <p>受講上のアドバイス: 積極的に発言し、活動へ参加すること。遅刻について: 授業時間の10分を過ぎての入室は欠課扱いとする。遅刻が頻繁な場合、欠課に換算することがある。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	Lesson 1		
		3週	Lesson 1		
		4週	Lesson 2		
		5週	Lesson 2		
		6週	Lesson 3		
		7週	Lesson 3, 音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解答解説, Lesson 4		
		10週	Lesson 4		
		11週	Lesson 4		
		12週	Lesson 5		
		13週	Lesson 5		

		14週	Lesson 5, 音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		15週	前期末試験の返却と解答解説	
		16週		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6	
		2週	Lesson 6、Lesson 7	
		3週	Lesson 7、Lesson8	
		4週	Lesson8	
		5週	Lesson 9、音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		6週	(後期中間試験)	
		7週	後期中間試験の返却と解答解説, Lesson10	
		8週	Lesson10	
	4thQ	9週	Lesson10	
		10週	Lesson 11	
		11週	Lesson 11、Lesson 12	
		12週	Lesson 12	
		13週	Lesson 12、音読テスト/ インタビューテスト, 課題提出	
		14週		
		15週	後期末試験の返却と解答解説	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	課題	小テスト	合計
総合評価割合	100	40	40	20	200
総合評価能力	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100